

披露してくれたのは、空中で1回転しながらハンドルを2回転させる「ダブルトラックドライブ」。21年の全日本BMXフリースタイル選手権大会では、7～9歳世代の出場者には真似できない大技も繰り出したという

巻頭特集

全日本大会で
堂々の優勝を果たした、
地元のスゴキッズ

BMXライダー

丹羽煌貴くん

カリフォルニアの子どもたちが、バイク競技・

モトクロスを実似たのが発祥とされる自転車競技、BMX。

アクロバティックな技の数々を繰り出すスポーツだ。

今回の主役は、そんな競技の全日本選手権を制した

スーパークイズ・丹羽煌貴くん。

練習を始めてから約1年半というわずかな期間で

優勝をもぎ取った背景には、両親の盤石のサポート体制、

そして温かなBMXライダーたちとの絆が垣間見えた。



PROFILE

丹羽煌貴くん
にわ・こうき

土岐市立泉小学校に通う3年生。誕生日プレゼントにもらったBMXに乗り始めるやメキメキと頭角を現し、プロBMXライダー高木聖雄氏への師事後は、大人顔負けのトリックも習得。将来の夢は、オリンピックの金メダリスト



BMXを始めた きっかけは「偶然」

灰色の雲から粉雪が舞う、中津川公園スケートパーク。両親が運転する車から降り立つた丹羽煌貴くんと妹・こころちゃんはさつそうとBMXにまたがると、待つてましたとばかりに、スケートパークへ繰り出した。「寒くて体が固まっているから、最初はちよつと怖いです」

そう話した煌貴くんは、なんと全日本のタイトルホルダー。十分に体

を慣らしたタイミングでトリック(技)の披露をお願いすると、急斜面を全速力で駆け上り、大ジャンプ!そのまま取材陣のいる平地にピタリと停車し、はにかんだ笑顔を見せてくれた。

BMX(バイシクルモトクロス)は、小型自転車にまたがって多彩な地形を乗りこなす自転車競技。平地での芸術点を競う「フラットランド」や、階段・手すりなどを利用する「ストリート」などがある。煌貴くんのスタイルは、人工的につくられた緩

急のある斜面などでの技術を競う「パーク」。東京五輪の正式種目にもなり、じわじわと人気が高まっている。ただ、父・信貴さんが我が子にBMXを贈ったのは、こうした背景とはまったく関係がなかった。

「コロナ感染防止のため、煌貴の所属する少年団サッカーチームが、活動停止になってしまつて。何か体を動かせるものはないかと探していたときに、たまたま見つけたのが、BMXだったんです」

もともと自転車でデコボコのある

しなやかさを存分に生かして、最高のトリックを目指せ!!!

1

2

3

4



①父・丹羽信貴さんは土・日に、母・紗矢香さんは、平日に練習を見守り、全国各地の遠征に兄妹を連れて行く。休日にも動向を見るなど、まさにBMXが生活の中心だ。両親は「中津川への移動時間を練習に充てるため、ぜひ土岐市にもスケートパークをつくってほしい」と熱望している ②中津川公園スケートパークでの取材時、煌貴くんがBMXを初めて教えた男性と、偶然出会えた。かなり年の差はあるのだが、それを感じさせないフレンドリーさがBMXライダーの持ち味でもある ③通常の自転車と違ってブレーキはないので、靴裏の摩擦で停車する。これだけでもかなりの力を要するもの、[今はナチュラルな筋肉でいい]というのが信貴さんの考え。入浴後のストレッチのみに留めている ④BMXを停止させつつ、ハンドルを1回転させるトリック「バースピン」を披露するのは、煌貴くんの妹・丹羽こころちゃん(5歳)。兄の技を見て覚え、ガールズスロークラスで年間ランキング3位の好成績を収めている。好物はビスケットと話す、素朴な一面も

「好き」が高じて全国へ 将来の夢は世界のトップ!

ハンドルが360度回転するなど独特な機構をもつBMXは、漕ぎ始めのペダルは重く、立ち漕ぎも難しい。さらに、パークの傾斜は、覗き込むのが恐ろしいほどの急斜面が散在する。当然、斜面を駆け上がるためのトリックができるようになるまでには、一定の時間が必要だ。煌貴くんも例外ではなく、初めて斜面をジャンプできたのは、乗り始めから約半年が経った頃だった。

華麗に空を舞えるようになって、安心はできない。着地に失敗すれば、

頑強な金属でつくられたBMXのフレームが折れるほどの衝撃がある場合もしばしばだ。煌貴くんは顔をを守るフルフェイスのヘルメットだけでなく、腹部やひじ、背中や膝などあらゆるところにプロテクターを装着して練習。楽しみながらも徐々に力を蓄え、さらにプロの指導もあつて、1年7カ月の短期間で、全日本BMXフリースタイル選手権大会への切符を手にしたのだった。

とはいえ、ひと筋縄でいかないのが、勝負の世界。普段とは違うコースのためか、決勝一本目では大きく転倒してしまう。さすがに信貴さんも、リタイアを覚悟したほどだった。「ひとたびクラッシュすると、メンタルへの影響は少なくありません。前日にできていたトリックが翌日できなくなるケースも、決して珍しくないんです。それでも決勝二本目に『行ける』と断言して大技を成功させたときには、本当に驚きました」

チャンピオンの風格が備わっていることを感じさせるエピソードだが、本人にとつては、あくまで夢の途中に過ぎないようだ。8歳の全日本チャンピオンは、ハキハキと夢を語り、締めくくつた。

「BMX以外に夢中になっていることは、特にありません。大人になったら、オリンピック選手になって優勝したい。金メダルを獲れそうなのがします」

複数の技を組み合わせたハイレベルなトリックが続々登場するという世界大会。人々を魅了する煌貴くんの勇姿を見られる日が、待ち遠しい。